

## 都市政策・地域経済ワークショップ I (第 11 回) 講演要旨

【テーマ】 2025 年日本国際博覧会(大阪・関西万博)にむけて

【講師】 2025 年日本国際博覧会協会 機運醸成局 地域観光部 審議役 森栄子氏

【日時】 2022 年 6 月 24 日(金)18:30~21:00

【場所】 大阪公立大学 梅田サテライト 101 教室

大阪・関西万博の最新の準備状況について説明をしていただくということで開始。  
ことは、2014 年秋、松井大阪府知事(当時)が万博開催検討を発表してから始まった。  
2018 年 11 月日本での開催が決定。

### 1. 国際博覧会(万博)とは?

- ・万博とオリンピックの違いは、オリンピックの主催が都市(東京)であるのに対し、万博は国家(日本)が主催であり、よりビッグなイベントである。
- ・20 世紀までの万博は「国威発揚」を目的としたものに対し、1994 年 BIE(国際博覧会協会)の総会決議を経て 21 世紀からの万博では、地球的課題と人類社会の持続的な発展がテーマの中心に変わった。
- ・国際博覧会には、登録博覧会(5 年に 1 回の大規模博覧会。1970 大阪、2005 愛知)と認定博覧会(登録博覧会の中の小規模。75 沖縄海洋博、85 つくば博、90 花博)の 2 種類ある。

### 2. 大阪・関西万博の概要

- ・2022 年は「開幕時の姿を意識した準備に着手」する時期。  
来年夏には前売り入場券の販売が開始される(大きなヤマ)。
- ・概要  
テーマ:「いのち輝く未来社会のデザイン」 Designing Future Society for Our Lives  
サブテーマ:①いのちを救う②いのちに力を与える③いのちをつなぐ  
コンセプト:未来社会の実験場  
開催期間:2025 年 4 月 13 日~10 月 13 日  
想定来場者数:約 2820 万人
- ・“2025 年”開催に意味がある  
①SDGs 達成が 2030 年で、2025 年に達成状況を点検できる。②団塊の世代が 75 歳以上になり、突出した高齢社会に入り社会のあらゆる面で見直しが求められる。
- ・会場デザイン  
多様でありながらひとつを象徴、一周 2km の大屋根、瀬戸内海に沈む夕日を臨む。
- ・万博の意義

いのち輝く未来社会へ、コロナを乗り越えた先の新しい時代に世界が一つになる。  
SDG s 達成と、その先に向けた姿を示す。

会場全体を未来社会を先取りした超スマート会場とする(未来社会の実験場)。

日本の飛躍の契機に。

- ・テーマの実現に向けて  
未来社会の実験場のコンセプトのもと、世界との共創、テーマ実践、未来社会ショーケースの3つを実施する。
- ・会場レイアウト  
大屋根の周辺に各パビリオンが設置。東エントランスに地下鉄駅、西エントランスはシャトルバス乗り場。
- ・8名のテーマ事業別プロデューサーが、それぞれ「いのち」のテーマのパビリオンを構想する。  
リアルとバーチャルの融合した新しい万博をめざす。

### 3. 各国の参加

- ・各国はサブテーマ(3つのいのち)から選択と、SDG sの中から1つ以上に取り組む。
- ・参加国数 目標 150 に対し 9割固まっている。

### 4. 大阪・関西万博への参加

- ・パビリオンは、SDG s の取組み集大成とその先の未来像を提示する。
- ・テーマ事業「いのちの輝きプロジェクト」に8名のプロデューサーが、それぞれ「いのち」をテーマにパビリオンを構想する。
- ・会場全体を未来社会ショーケースとして、最新のテクノロジー・サービスの「実装の場」として活用する。
- ・未来社会ショーケース事業として①スマートモビリティ万博、②デジタル万博、③バーチャル万博、④アート万博、⑤グリーン万博。⑥フューチャーライフ万博。
- ・営業参加=テナントは1年前に公募で選ぶ。
- ・「TEAM EXPO 2025」プログラムへの参加。万博テーマを実現、SDG s 達成貢献のための取組み場所を提供。共創チャレンジの活動例として大阪公立大学(視覚障がい者の単独歩行支援ナビ)など。

### 5. 機運醸成の取組み

- ・公式キャラクター愛称公募、2022年夏決定。
- ・公式ライセンス商品、2022年夏から展開。
- ・万博仕様自動車用ナンバープレート、2022年9月申込み開始。
- ・会場～西日本、全国をつなぐ「万博観光」、万博を活用した観光誘客。

## 6. 政府の取組み

- ・政府の司令塔機能強化、2020年9月万博担当大臣新設。総理大臣を本部長とする国際覧会推進本部発足。「博覧会は、新型コロナウイルスを克服した後に日本の伝統や魅力、文化を海外に発信する最高の機会。(開所式での総理訓示)」
- ・アクションプラン決定。「未来社会の実験場」の具体化に向けた取組みについてまとめたもの。半年に一回改訂予定。次回12月。

### 今後のスケジュール

「基本計画」(2020/12/25策定)に基づき、各国や企業等への参加招請活動を展開し、参加と共創を促進するとともに、各分野毎に詳細な計画を策定していく。  
来年入場券前売販売、パビリオン等建築工事が始まり、2025年開幕に向かう。

### 終わりに

- ・万博には前例がない。ほかの時ではできないことが試みられるチャレンジの場となるように経済界・自治体・協会が連携して取組んでいく。
- ・国家事業であり各国のVIPが訪問し、いろんなつながりが強化される。日本ブランドを売り込む大いなる機会。
- ・「未来社会の実験場」で、万博でないとできない実験を世界に示していく。
- ・「万博観光」を通じて各地の観光地との誘客連携の絶好の機会である。
- ・万博を、世界・日本・地域・企業の次の時代をつくるきっかけという装置として活用してもらいたい。

### 主な質問事項

Q1) ①花博、愛知博と比較して目玉はないのか。②混雑対策は。③地域との連携は。

A: ①“太陽の塔”のようなシンボリックな造形物はない。多様性を打ち出して“他ではできない体験”を提供していく。

②入場日予約はじめチケットの券種を多様化するなどで来場者数を“平準化”させる工夫をする。

③関西を中心に連携を考えており地域の人に万博にかかわってもらおう。万博はゲートウェイで、全国が会場とも考えている。

Q2) 来場者数2800万人中、インバウンドが350万人は少ないか。

A: 愛知博など参考に来場者数を予測している。インバウンドの呼び込みに力を入れる。

(佐藤教授) コロナが鎮静化しない中、3年先のインバウンドの人数は読みにくい。

Q3) 多くの社会課題の解決に向けたアウトプットはどうしているか。

A: 万博そのものが社会課題の解決を使命として開催されるため、会場内外のあらゆる事業が社会課題解決へのチャレンジに向けたものとなるが、多くの方に興味深く関心を持っていただけるものの一つとして、例えば各分野気鋭の8人のプロデューサーによるテーマ事業においては、8人それぞれの感性・想像力・専門性等により社会課題等を克服していくためのユニークな提案が行われる。

Q4) 理想のテーマを掲げているが、現実を見ると夢に終わってしまうのではないか。

A: 何かが変わるきっかけに、その仕掛け作りをしていく。

(佐藤教授) 万博のようなビッグイベントが地域にどのような波及効果をもたらしたか研究するのもおもしろい。

Q5) 教育プログラムがまだ少ないようで、国の関与を強めるのに制限はあるのか。

A: 国が主催する国家プロジェクトであり制限はない。経産省が主管。

Q6) ①先生はドバイ博に行かれたか。訪問で価値観は変わったか。②協会要人のスキャンダルリスク管理について。

A: ①行って感動し多くを学んだが、視察の視点は会場運営など開催者の立場でチェックすることが多かった。

②過去の例やオリパラで起こったことを参考に二重三重にリスク管理を考えている。

Q7) 地震・津波対策は。

A: 会場の地盤は高く、南海トラフ等で想定される津波のさらに高い津波にも耐えられる。数年前関空が水没した台風の時も被害はほとんどなかった。

Q8) 跡地利用は。

A: 大阪市へ更地にして返すことになっているが、最後は国民の声に依る。リサイクル、リユースも考えられるが、半年間使用の耐性を前提で建設している。

佐藤教授より、

本日は万博の現状についてお聞きしたが、万博はこれからも毎年進化し具体化していくので、どう変化していくか見ていければおもしろい。来年以降も万博をテーマとした話を伺いたいとの言葉で閉会となる。

(執筆者 川本 隆廣)